

SHIRAKOBATO

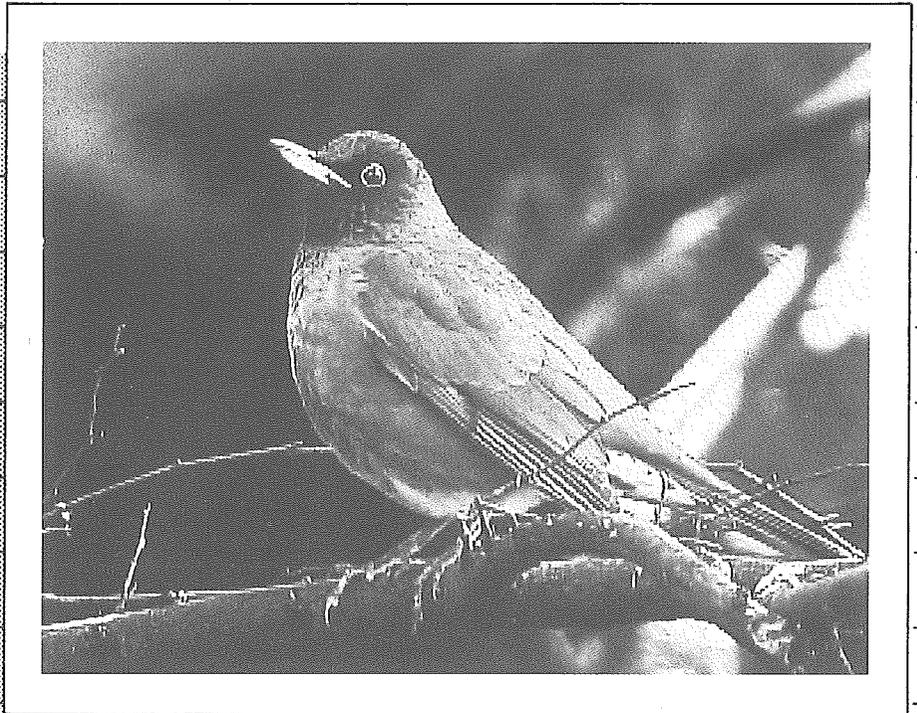
しらこぼと



2002.4

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 216

日本野鳥の会 埼玉県支部

2001年埼玉県内の鳥を振り返る

橋口長和（春日部市）

◆ 埼玉県鳥見ランキング

埼玉県支部のホームページで昨年から「埼玉県鳥見ランキング」という企画が始まりました。この企画は、昨年1年間で支部の探鳥会に参加した回数と埼玉県内で観察した鳥種を競うもので、それぞれのランキングは表1と表2のような結果となりました。

支部探鳥会参加回数ランキングには15名の方がエントリーされて、年間30回、12カ所の探鳥地を回られた小川町の鈴木敬さんが一位に輝きました。この記録は、昨年実施された支部探鳥会104回の29%に当たります。

つぎに、観察鳥種数ランキングでは、8名のエントリーがあり、手前味噌ではありますが筆者が125種で1位になりました。

◆ 昨年の県内観察鳥種

ここで、2001年の埼玉県内の鳥見について探鳥会報告、支部野鳥記録委員会および『しらこぼと』の野鳥情報からデータを抽出し、分析をしてみました。

まず、昨年1年間で実施された支部探鳥会のうち埼玉県内での探鳥会で先月までの支部報に報告のあった82回について集計を行いました。県内探鳥会で記録された鳥種は120種にのびりました。

ただし、埼玉県内で観察した鳥であることを前提としますので、渡良瀬探鳥会は全ルートが県外となり記録は採用していません。

図1に月毎に記録鳥種の累計の変化を表してみました。これを見ると1月末で1年間の記録鳥種の60%(72種)を見ていることになります。

つぎに、2001年3月～2002年3月までの支部報に報告された『野鳥情報』から探鳥会記録にない鳥種を拾い出した最終的な結果は、189種に上りました。

詳細のリストは支部のホームページで掲載いたします。

◆ 昨年の珍鳥

昨年中に埼玉県内鳥類目録に追加された鳥は、カリガネ、ユキホオジロ、シロエリオオハム、マミジロキビタキの4種で、累計310種になります。

また、鳥類目録記録開始から2回目の記録がハマヒバリとナベヅルです。東北地方の大雪のため大群で南下したと思われるマガンのほか、ミヤマガラス、コクマルガラス、アカガシラサギ、オオハクチョウ、シロカモメ、マミジロツメナガセキレイ、シマアカモズが観察されるなど、比較的珍鳥の多かった年ではなかったかと思います。

◆ 県内鳥見ランキング1位を目指そう

本年2002年も引き続き埼玉県内鳥見ランキングを続けます。あなたも今年の探鳥記録を振り返り、これからの探鳥計画を立て、年間鳥見ランキング1位を目指してみませんか。

2001年観察鳥種リストの分析から、私なりの年間鳥見ランキングの記録を作る探鳥計画を立ててみました。

- (1) 1～3月、彩湖、昭和池、森林公園、大麻生探鳥会でカモ類などの冬の水鳥をあまねくゲットする。
- (2) 4～5月、春の渡り、田植えに合わせてシギチを追いかけ、バードウイークには秋ヶ瀬公園や森林公園などで渡り途中の山の鳥をゲットする。思い切って秩父や城峰公園に遠征するのも手です。
- (3) 6～8月は小休止、しかしコヨシキリ、ササゴイなど取りこぼしの無いように湿原回りと、奥秩父で夏の山の鳥を稼ぐ。
- (4) 8下～9月、渡り途中のシギチを求め休耕田を丹念に探す。
- (5) 10～12月、天覧山や物見山のタカの渡り調査に参加しタカ類を見て、また前シーズン取りこぼした冬鳥を追っかける。

以上を実行できたら、埼玉県内年間150種も夢ではないと思います。

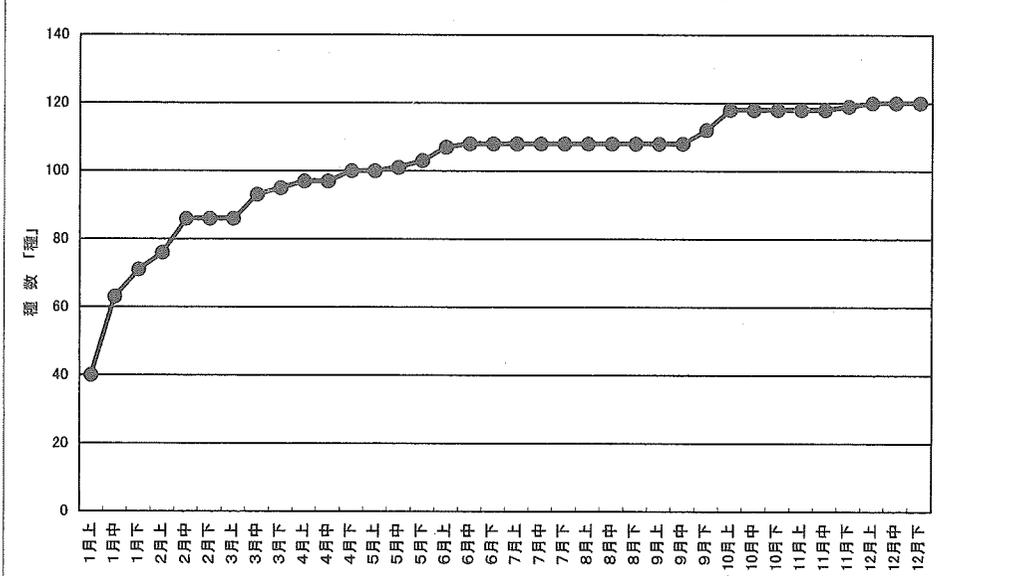
表1 2001年埼玉県支部探鳥会参加数ランキング

順位	参加数	探鳥地数	氏名	住所	申告日
1位	30回	12カ所	鈴木 敬	小川町	2001/12/25
2位	24回	16カ所	四分一保雄	羽生市	2002/1/4
3位	21回	15カ所	玉井 正晴	蓮田市	2002/1/4
4位	21回	14カ所	大澤あつし	川本町	2001/12/17
5位	19回	11カ所	大坂 幸男	上尾市	2001/6/17
6位	18回	13カ所	石光 章	所沢市	2002/1/6
6位	18回	13カ所	江波 功	さいたま市	2001/12/26
8位	17回	14カ所	藤掛 保司	川越市	2001/6/17
9位	13回	9カ所	海老原教子	さいたま市	2001/7/23
10位	13回	8カ所	橋口 長和	春日部市	2002/1/2
11位	11回	11カ所	渡邊 嘉男	さいたま市	2001/6/21
12位	11回	10カ所	白井 聡一	さいたま市	2001/12/26
13位	9回	9カ所	陶山 和良	さいたま市	2001/12/26
14位	7回	7カ所	榎本 秀和	鴻巣市	2002/1/27
15位	1回	1カ所	長嶋 宏之	蓮田市	2001/5/7

表2 2001年埼玉県内鳥見ランキング

順位	鳥種数	観察最終日	氏名	住所	申告日
1位	125種	2001/12/17	橋口 長和	春日部市	2002/1/2
2位	119種	2001/12/25	玉井 正晴	蓮田市	2002/1/5
3位	112種	2001/12/10	逸見 峻	吹上町	2002/1/27
4位	96種	2001/11/24	榎本 秀和	鴻巣市	2002/1/27
5位	90種	2001/4/29	長嶋 宏之	蓮田市	2001/4/30
6位	87種	2001/7/1	渡邊 嘉男	さいたま市	2001/7/1
6位	87種	2001/12/16	大澤あつし	川本町	2001/12/17
8位	67種	2001/9/30	四分一保雄	羽生市	2001/9/30

図1 2001年埼玉県内探鳥会での記録鳥種の変化



シロハヤブサに振られなかった日
榎本 秀和 (鴻巣市)

——今シーズンは砂崎にシロハヤ来たって。仲間と見に行くんだ……。

そう話していた鳥友H氏から突然の電話。「急用ができて行けなくなった。代わりに行ってくれないか？」

「え〜っ!」、素っ頓狂な声を上げつつ、取りあえず4時間ほど時間をもらい、職場の都合と懐具合に相談してから返事をするに、して電話を切ったが、心はもう行く気になっている。何しろシロハヤブサには深い深い思い入れがあるのだ(支部報『しらこぼと』206号(2001年6月号)拙稿「400種達成!我がライフリストに想う」参照)。

見知らぬ人に交じって旅をすることに多少の気おくれを感じたが、そこはバードウォッチャー同士、何とかなるだろうと心に決め、機上の人となる。

函館に到着した翌日、早朝から夕方まで丸一日、荒涼とした砂崎の地でひたすらシロハヤブサを待つ。しかし、出ない。

翌朝は、悲壮感あふれながらの再チャレンジ。今夜の飛行機で帰るのだから、もうあとはない。ところが、砂崎に着くやいなや「いた〜っ!」。心の中で大声で叫んでいた。

2001年12月4日午前7時15分、「シロハヤ、ついにゲット!」。この冬のシロハヤブサはお腹まで真っ白な白色型だ。目の周囲や頬膜に黄色みがなく、足の黄色も淡い若鳥だが、大きさから見て早の個体だろうか。絵に描いたようなスノーホワイト(白雪姫)を眼前に



ズグロミゾゴイ(手塚正義)

して、目をスコープに当てたまま、私は自宅の妻に、思わず携帯電話で興奮と感激の報告を入れていた。

同好の士や地元の皆さんに支えられながらの旅であっただけに、いつまでも記憶に残る思い出である。そしてこのシロハヤブサで、私は国内ライフリスト405種目をマークした。

バンをテーマに……

高島 茂雄(春日部市)

今日は正月三日、さぎ山探鳥会は記憶に残る素晴らしいものだった。快晴、風もそれほど強くなく絶好の探鳥日和で、遠く真白な富士山が澄んだ空気の向うにあった。見沼の水路にそって歩いて行くと「バンがいる!」との声。目の前の枯芦の根元でバンの幼鳥がさかんに何かの若葉をつつついている。鮮やかなオリーブグリーンの足が印象的だ。目の色は暗くて何色かわからない。全身は灰色の上に緑色を乗せたような何とも言えない良い色をしている。

その時、ふと以前見たことのある日本画家奥田元宋画伯の銀閣寺の襖絵を思い出した。その絵は谷川が上流の小さな滝から中流の岩場を流れ下り、下流の桜の木の下に流れるとゆったりと流れる構図になっていた。人の一生を表わしたものという。その途中のくさむらの中に、一羽のバンの成鳥が潜んでいて、じっと流れを見やっていた。全身は黒、くちばしが赤で、羽には二ヶ所白い羽があしらってあった。このバンという鳥は何か哲学者のような感じのする鳥だな、と思った。よく一度見ると忘れられない絵というものがあると言うが、小生にとってこの絵がそうだった。

帰宅してさっそく画集を繙いて見入ったが「流水無限」という題の絵であった。

非常に重いテーマで、素人画家の小生には荷が重い、いつかバンをテーマに描いてみたいと思った。

その時は、成鳥でなく今日見たイメージを忘れずに幼鳥でも良いと思っている。

初冬の山旅

陶山 和良 (さいたま市)

かねてよりの念願であった霧積温泉から軽井沢への初冬の山歩き一人旅に出かけた。

初日は晴天に恵まれ、快調に温泉宿近くの海拔1,429mの剣の峰へ。耳にするのは落葉を踏む足音と谷川のせせらぎと自分の吐く息だけで人っ子一人いないばかりか、小鳥たちも全く顔を見せない。が、山頂から見た冠雪を頂いた浅間山の眺望は格別だ。

さて2日目の朝。軽井沢への出発というのに、どんより曇りで小雨模様。私の他の泊り客3人のグループは軽井沢行きを断念するという。宿の主人は「雨はあがるでしょう。が、登りのとっつきは少々きついですから足もとに注意して下さいネ」。親切な言葉をあとに、防寒具、雨具と完全装備で意気揚々とスタートした流石の私も、問題の登り坂は10歩進んで一休み。ただただ足元を見て登るだけ。雨は止んだものの、全身汗でびしょ濡れ。でも谷間から吹き上げる風がなんとも心地良い。

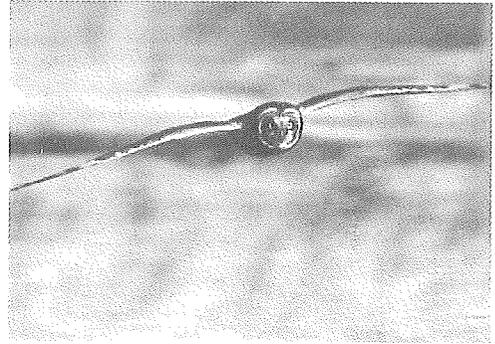
やっと人心地がついたその時、目の前に現われたのが20羽程のエナガの群。はるか下から聞こえる谷川のせせらぎといっしょにチュリチュリとあの可愛らしい声が聞こえるではないか。「ヤー、お出迎えご苦労さん」コガラ君もオオガラな私を迎えてくれる。

しばらく歩くと、突然視界が開け、中国の山々を思わせる裏妙義の絶景が目に入る。平坦な道になると現金なもので余裕ができ、周囲にも目がゆきとどく。「おや、イワヒバリではないか？」高山の野鳥がこんな所にいるなんて…ガイドブックには標高2,000m以下の岩山にいることもある、と。そうか、ありがとう。

自然の中で初めて出会ったヤマドリは、キジの雌と色合いは似ているが、目の周りが真赤で、光沢のある美しい茶系色と尾の長さ…ヤー苦あれば楽(タノシミ)ありだ!

帰途、小海沿線にある八千穂村の友人の山荘へ立寄った。翌朝、出かけた駒出キャンプ場で予期しないアカマシコが現われ、ガイドブックで調べて、あらためて感激する程の珍

鳥で、喜びひとしおの2泊3日の山旅となった。



コミミズク (編集部)

とりとめもなく鳥のこと

畔田 祐子 (川越市)

2月号のジュリンの識別は興味深く読ませていただきました。それなら私も見る事ができる。見たかもしれない。まさかと思って除外したのがいけなかったかも……と、情報だけではなく、自分の目を信じる事、信じるに足る眼力をつける事など、考えさせられました。

職場で話すと、物知りだねと言われ、やっと数種見分けられる程度なのに、トホホの日々です。鳥のこと話した〜い。

いつも行く大塚公園(文京区)で、ハトをけちらし歩いていると、足指のないものがまた目に入ってしまった。器用に歩いています。ウーン。

東京都がカラス対策を開始しましたが、逃げたカラスはきっと周囲の小鳥たちをおびやかす存在になるのでは。

ジョウビタキが今年も来ない。モンモン。



ヒレンジャク (菱沼一充)

野鳥情報

さいたま市日進町1丁目 ◇1月10日、ルリビタキ♂、昨年末より久々の来訪。ピンズイ3羽、コジュケイ1羽。1月19日、ツミ♀1羽、カケス2羽にしつこくつきまとわれ、迷惑そうだった。シジュウカラ、メジロの群れの中にヤマガラ2羽、ヒガラ3羽。シロハラ3羽。ジョウビタキ♂、この季節めずらしく鳴いていた（浅見健一）。

さいたま市別所沼 ◇1月15日、キンクロハジロ（小川力雄）。

さいたま市指扇 ◇1月19日午後1時頃、わがマンションの「餅つき大会」がまさに開会の時刻に、チョウゲンボウ1羽、丁度開会を宣言するかのごとく上空一旋、エレベータータワーの上の避雷針の先端に止まる。あの先端にどうやって止まる？（松井昭吾）。

さいたま市秋ヶ瀬公園 ◇2月15日、タゲリ22羽（山本）。

さいたま市上野田 ◇2月22日午後3時頃、JAさいたま野田支店の敷地西側の葉の落ちた立ち木にスズメが数羽とまっていた。何の気なしに見ていたら、南側からヒヨドリがその立ち木目がけてスーッと飛んできた。その瞬間、スズメが一斉にパッと飛び散った。一瞬のできごとで、何が起ったかわからなかったが、飛んできたのはヒヨドリではなく、実は小型のタカだった。スズメに逃げられた立ち木の手前でUターン、やや赤っぽい下面を見せて、身を翻して西の方へ飛んでいった。大きさなどからツミだったと思われる（藤原寛治）。

さいたま市見沼田んぼ ◇2月23日、24日、芝川中洲念仏橋北でタゲリ7羽、コガモ多



ツグミ（増永輝久）

数、シメ1羽（落合英二）。

さいたま市新宿 ◇2月25日午前7時20分、見沼田んぼで、道路脇の1本の大きな木にノスリ1羽とカラス3羽がとまっていた。カラスはノスリの回りを囲むように一定の距離をおいて1羽ずつとまっていた（藤原寛治）。

戸田市道満 ◇2月4日、釣り堀でクイナ。彩湖右岸でミコアイサ♀、イソシギ、オオジュリン、マヒワ（陶山和良）。◇2月16日、彩湖右岸でツリスガラ、オオジュリン。道満公園でアカハラ、カシラダカ（陶山和良、岩井義雄、星野政一）。

行田市 ◇12月頃からものつくり大学の調整池でヨシガモ♂1羽をよく見ます。昨日は元荒川にカルガモの大群に混じり飛来していて、かなり近くで見られました。なお、初めて鳴き声を聞くことができました。この他、ものつくり大学の調整池ではマガモ、コガモ、ハシビロガモ、カルガモがよくいます。オカヨシガモ♂2羽もよく来ています。ヒドリガモ、キンクロハジロも飛来したのを見た事があります（吹上町住民）。

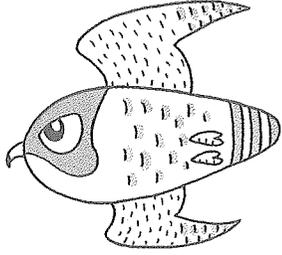
上福岡町 ◇1月26日、川崎橋下流方向にシメ♂1羽、ジョウビタキ♀1羽。2月16日、川崎養老橋上流でカワセミ、シロハラ。枯れたオオブタクサをつつくコゲラ（山本）。

表紙の写真

亜種オオアカハラ（スズメ目ツグミ科ツグミ属アカハラ）

学名 *Turdus chrysolaus Orii* 越冬中のアカハラの中に、頭部が黒く、アカコッコかと迷うほどの個体を見かける。最近相次いで出版された何冊かの写真図鑑で疑問が解けた。アカハラには亜種アカハラと亜種オオアカハラがいて、亜種オオアカハラは、体がやや大きめ、頭部の黒みが強く、上面が濃いオリーブ褐色。嘴は太くて長い。これだこれだ。三宅島噴火以来本土で目撃されているアカコッコの中の何割かはこれの誤認といううわさも聞いた。写真と文・海老原美夫（さいたま市）

行事あんない



(何森 要)

北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：4月7日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から、北里メディカルセンター病院行きバス8：40発にて「自然観察公園前」下車。

担当：岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野

見どころ：春の訪れを最初に感じとっているのは主婦ではないだろうか？ 掃除、洗濯、布巾干し。サクラの開花が気になりますが、見ごろは五分咲きころから。衣替えを済ませ、さえざり始めた鳥たちを観察します。

さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

〈見沼ヘルシーロードコース〉

期日：4月7日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、大崎園芸植物園行き8：30発、または東川口駅北口行き8：38発に乗車、「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：伊藤、手塚、工藤、倉林、吉岡(洋)、若林、新井(勇)

見どころ：だいぶあったかーになってきた空気の中、たくさんの花が咲いている路

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候の時は中止、小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

を歩いていきます。春ならではの鳥や、旅立っていく鳥たちにたくさん会えるのを楽しみにして。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：4月7日(日)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。

または午前8時30分、中央エントランス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7：15→春日部7：29→栗橋7：54→柳生8：04着。またはJR宇都宮線大宮7：08→栗橋7：43着にて、東武日光線乗り換え。

解散：午後12時ころ、谷中村史跡駐車場。

担当：橋口、玉井、内田、田邊、四分一、中里、田村、伊藤(隆)

見どころ：春の渡りの季節、いつも何かしら期待ができる渡良瀬です。谷中湖の残りガモを楽しんだ後は、谷中村史跡の林で羽を休めている夏鳥を探します。昼食持参でお出かけください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：4月14日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：和田、森本、中里、石井(博)、倉崎、高橋、後藤、藤田、栗原

見どころ：春ですね。気を張らずにのんびりとした気分でご参加ください。昨年4

月は久々にニューナイスズメ、ヒレンジャクに再会できて幸せでした。今年はどうでしょうか。満開の桜にSLの力強い走りも見ものです。

「しらこぼと」袋つめの会

とき：4月20日（土）午後1時～2時ころ。
会場：支部事務局108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：4月21日（日）
集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。
後援：さいたま市立浦和博物館
担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、兼元、森（力）、小菅、新部
見どころ：今年は今までよりゆっくとやっている。畑を歩いているホオジロやハクセキレイのほほの色、羽の色をあれやこれや言いながら楽しんでいる。季節の移り変わりを肌で感じ、皆で人と自然の調和を楽しむ会にしていこう。

さいたま市・秋ヶ瀬公園探鳥会

期日：4月21日（日）
集合：午前8時20分、京浜東北線浦和駅西口バスロータリー。集合後5番バス乗り場から、荒川総合公園行き8：39発にて「諏訪前橋」下車。または午前9時10分、上記バス停前。
担当：倉林、海老原、小林、百瀬、渡辺（嘉）、森（秀）
見どころ：春たけなわ。鴨川では水辺の鳥を、公園では山野の鳥を探しましょう。うららかな陽気の中を歩いて気持ちが良いですよ。

東松山市・物見山探鳥会

期日：4月28日（日）
集合：午前9時30分、物見山駐車場（峠を越えた右側）。
交通：東武東上線高坂駅西口から、東武バス鳩山ニュータウン行き8：58、9：08

発にて「大東文化大学前」下車、徒歩約5分（バス進行方向へ進みます）。

担当：藤掛、岡安、志村、立岩、後藤、池永、増尾、山田（義）

見どころ：さわやかな風とともにゴールデンウィークの始まりです。里山に新緑が映えるなかにゆっくと歩きましょう。つつじの花などに蜜を求めて飛び交うメジロなどの野鳥を探しにお出かけください。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：4月29日（月・祝）
集合：午前8時30分、東武伊勢崎線春日部駅西口朝日バス1番バス停前。集合後、春日部エミナス行き8：45発にて「共栄大学・短大前」下車。または午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。
担当：吉安、中村（榮）、橋口、新井（良）、松永、宮下、吉岡（明）、田村、廣川
見どころ：若葉の美しい季節の到来です。ツミが2年続けて巣作りをしているので、今年も来てくれることを期待しましょう。コムドリ、ムナグロなどにも再会できれば最高ですね。

シギ・チドリ類県内調査

期日：4月29日（月・祝）
埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。
下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願いいたします。

◆秋ヶ瀬（さいたま市）

集合：午前9時30分、大久保浄水場の北西角近くの土手の上、グラウンド入り口。
担当：石井 智
解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。

長野県・白馬山麓探鳥会（要予約）

期日：5月11日（土）～5月12日（日）
集合：11日午前9時15分、JR長野駅善光寺

口（西口）駅前広場。

交通：長野新幹線「あさま551号」（東京7：00→大宮7：26→熊谷7：40→高崎7：54→長野8：50着）。または「あさま1号」（東京7：32→大宮7：56→長野8：57着）。

費用：10,000円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：20名（先着順、支部会員優先）

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、参加回数を明記して、小池一男 まで。

担当：小池（一）、小池（順）、岡安

見どころ：オオルリ、キビタキ、クロツグミなどのコーラスや、カタクリ、スマレに、ギフチョウたち妖精のお出迎え。5月はダイナミックな自然の息吹を満喫できます。白馬が好きなりピーターさん、ビギナーさん歓迎します。

長野県・戸隠飯綱高原探鳥会(要予約)

期日：5月18日（土）～5月19日（日）

集合：18日午前9時10分、長野駅コンコース（新幹線改札口を出て右側）。

交通：上掲「白馬山麓探鳥会」に同じ。

費用：11,000円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、支部会員優先）

申し込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、菱沼一充 まで。

担当：菱沼、北川、藤掛、中里

見どころ：今回は例年より一週間早いので、ミズバショウ、カタクリなどの花も楽しめそうです。オオジシギのディスプレイ、森の美声の主たちの競演などに期待しましょう。

神泉村・城峯公園周辺探鳥会(要予約)

期日：5月25日（土）～26日（日）

集合：午前7時30分、JR大宮駅西口代々木ゼミナール前。

交通：25日は貸し切りバス、26日は村営バスを利用します。

解散：26日午後2時ころ JR 高崎線本庄駅。

費用：13,000円の予定（1泊3食、バス代、保険料など）。万一過不足の場合は当日精算。詳細は参加者に通知致します。

定員：25名（最少催行人員15名、先着順、支部会員優先）

申し込み：通常はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、橋口長和 まで。

担当：橋口、玉井、田邊、中里、入山

見どころ：2年ぶりの開催です。初日は貸し切りバスで横瀬町県民の森を探鳥してから、現地入りをします。早朝のクロツグミなどのバードコーラスのシャワー、キビタキやオオルリなどの夏山の鳥を堪能します。

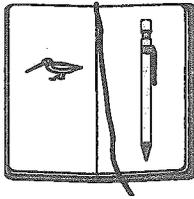
備考：宿泊は神泉村村営下久保コテージ。

.....
〈ご注意〉3月・4月に鉄道バス等のダイヤ改正が予定されています。時刻をご確認の上、ご参加ください。

宿泊の探鳥会は、すべて男女別の相部屋です。個室のご用意はできません。



三室探鳥会にて



行事報告

9月22～24日(土～月) タカの渡り調査

ボランティア: 21人

池内敦子、池内輝明、榎本秀和、大坂幸男、大澤祐、加藤渉、北村隆、小出博、後藤喜久子、後藤康夫、小林ますみ、佐久間博文、佐藤壯伍、佐藤亘、澤井清、志村佐治、杉原みつ江、藤澤洋子、逸見嶮、本多滋和、森本國夫

12月24日(月、休) 年末講演会

参加: 71人

海老原副支部長による「ビデオで振り返るこの1年」のコーナーのあと、今回の講師、写真家の中野泰敬氏より、ミッドウェイの探鳥ツアーの指導経験を踏まえて、エコツーリズムの現状や海鳥の生態についてお話いただく。参加者全員に氏の撮影になる野鳥ハガキがプレゼントされ、好評であった。懇親会にも16人の参加があり、講師を囲んで大いに盛り上がる。(榎本秀和)



1月3日(木) さいたま市 さぎ山記念公園

参加: 45人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ バン オオバン タゲリ キジバト カワセミ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス

ス ハシボソガラス (36種) かつてはここで越冬していたが、1989年から始まったこの探鳥会では一度も観察されなかったノスリが、10数年ぶりにカラスと華麗な空中戦。オオバンは初記録。一方13年間観察率100%だったウグイスが、声も聞こえなかった。タゲリの数は激減。36種は過去13年間の平均と同じだが、少しずつ変化が見えてくる。探鳥コースの冷たい風ほど吹く風かと、野外懇親会の会場は今年も陽だまり風もなし。酒を酌み交わしてにぎやかだった。(海老原美夫)

1月6日(日) 千葉県船橋市 船橋海浜公園

参加: 18人 天気: 晴

ハジロカイツブリ カムリカイツブリ カワウ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ スズガモ ホオジロガモ ウミアイサ トビ チョウゲンボウ ミヤコドリ シロチドリ ダイゼン ハマシギ ミユビシギ ダイシャクシギ ユリカモメ セグロカモメ カモメ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシボトガラス (31種) 沖のスズガモの中からウミアイサを探すのは大変。ミヤコドリは突堤の上で休息中。潮が引いてくるとハマシギ、ミユビシギがやってきて干潟らしくなった。(杉本秀樹)

1月11日(金) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 31人 天気: 晴後曇

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ ホシハジロ ミコアイサ トビ オオタカ ノスリ バン キジバト コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガラス ハシボトガラス (38種) 新春で平日では団体入場は無理? でも、平日だから参加

できたど、嬉しい人たちで、お茶代ゲット!! 中島支部長、松井顧問にもご挨拶いただき、スタート。幸せを呼ぶ青い鳥ルリビタキ、通称バンダガモのミコアイサひ2羽も全員で確認。アフターでオンドリを探しに5箇所も沼を回ったが、今年はどこにもいなかった。(藤樹保司)

1月12日(土) 久喜市 久喜菖蒲公園昭和池

参加: 27人 天気: 快晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ オオタカ バン オオバン セグロカモメ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 正月としては暖かい探鳥会日和であった。しかし、カモの数が例年になく少ない。お目当てのトモエガモを探す、発見できない。焦りが出る。やっどご対面となるが、首を隠していたので、容易には見つからなかったのだ。4年ぶりの再会。ああ本当によかった。(大坂幸男)

1月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 47人 天気: 晴

カワウ オオタカ キジバト アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) ミヤマホオジロ、レンジャクに期待して、はるばる千葉、東京からの参加者も。しかし、暮れに確認されたミヤマホオジロは現れず、また、レンジャクは時期尚早の感じで残念。しかし、スコープの視界に、セキレイ3種が一度に見られたり、枝上で休むアカハラのお腹の色取りをじっくり観察できたりする幸運があり、今年もいい感じだ。(和田康男)

1月13日(日) 戸田市 彩湖

参加: 69人 天気: 晴

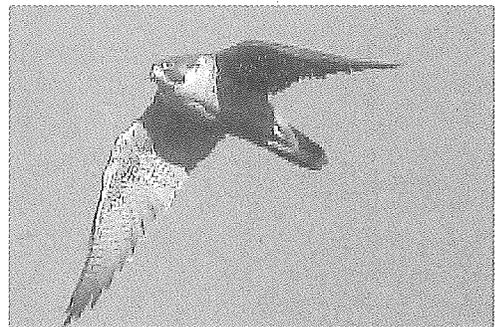
カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサ

ギ アオサギ マガモ カルガモ オカヨシガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ ノスリ チョウゲンボウ バン オオバン イソシギ ユリカモメ セグロカモメ キジバト ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 集合して挨拶中にチョウゲンボウが出て気合が入る。釣堀横の草原でシメ、カシラダカ、アオジ等。カワラヒワの群れの中にオオカワラヒワが1羽。湖ではミコアイサひ2羽。オカヨシガモやオオバンの多さに驚く。1月とは思えないほど暑くなり、ぽかぽかの会だった。(倉林宗太郎)

1月19日(土) 吉見町 吉見百穴周辺

参加: 26人 天気: 晴

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ トビ オオタカ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ イカルチドリ キジバト キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 風はやや冷たいが、まずまずの探鳥日和。いつものように市野川沿いに歩き、鳥影をのんびり探す。短時間のうちにタヒバリとビンズイが見られ、初心者の方にも違いをよくわかってもらえたようだ。後半は猛禽ラッシュで、チョウゲンボウ、ノスリ(複数)、ハヤブサ2羽、オオタカ若鳥が次々に姿を見せてくれた。相変わらず大沼は水位が低くマガモが数羽。(榎本秀和)



ハヤブサ (編集部)

連 絡 帳

●諫早干潟を救おう！—緊急署名にご協力ください

諫早湾の国営干拓事業が、農水省自身の設けた 2 委員会の意見を無視する形で強行されています。

昨年夏の時のアセス第三者委員会による事業見直し勧告に続き、12 月 19 日農水省の有明海ノリ不作等対策関係調査検討委員会（ノリ第三者委員会）は、「潮受け堤防の水門を開放し、干潟を回復させて数年間の長期調査を行うこと」との見解を出しました。しかし、農水省は、不十分な見直し計画を変えないまま、多くの反対や抗議を押し切って、中止していた工事を再開してしまいました。

今必要なことは、ノリ第三者委員会の見解に従って根本的に方針転換し、諫早湾の干潟と有明海を再生させることです。この主張を国政の場に届けるため、日本野鳥の会は、諫早干潟緊急救済本部、有明海漁民・市民ネットワーク等の団体と協力して、衆参両院議長の署名活動を始めることにしました。

署名用紙は『野鳥』3月号に同封されているほか、自然保護センターにご請求いただければお送りします。ご署名後、5月末までに自然保護センターまでご郵送ください。

何度も様々な形の署名運動にご協力いただいています。またもや会員の皆様の力が必要になってきました。どうぞ重ねてのご協力をお願い申し上げます。

署名用紙請求先・署名郵送先 151-0061 東京都渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1F (財)日本野鳥の会自然保護センター (TEL 03-5358-3518) HP にアクセスできる方は、<http://www2s.biglobe.ne.jp/~isahaya/shomei/index.html> にどうぞ。

●鳥類目録についての検討事項の続き

サバンナシトドは、「論文として公表されていない」との理由で、「検討中の種」として掲載されています。これも県内鳥類目録ではどう扱うか、検討対象に含まれます。

●会員の普及活動

2月21日(木)さいたま市大宮公園と芝川周辺で開催された大宮北公民館主催野鳥観察教室で、松井昭吾顧問と中島康夫支部長が指導しました。

●4月の事務局 土曜と日曜の予定

6日(土) 5月号編集作業。普及部会議。研究部会議。
13日(土) 5月号校正。
20日(土) 5月号袋づめの会。
21日(日) 役員会。

●会員数は

3月1日現在 2,704 人です。

活 動 報 告

2月9日(土) 校正作業(大坂幸男、喜多峻次、山田義郎)。(8日に海老原美夫、10日に藤掛保司、山部直喜も)
2月17日(日) 役員会議(司会:菱沼一充、各部の報告・行事予定・その他)。
2月18日(月) 3月号発送(倉林宗太郎)。

編 集 後 記

私事が多忙?で編集会議もごぶさたばかり。久しぶりに浦和駅に降りて、道を確認しつつどり着いた。事務局は前と変わらずきれいで、ホッ。(内藤義雄)

前号 P4、タカの渡り調査の原稿を校正しすぎて、日にちの「9月」が消えちゃった!(海)

しらこぼと 2002 年 4 月号 (第 216 号) 定価 100 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130
〒336-0012 さいたま市岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル 1 階
(財)日本野鳥の会 会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社